

解析手法の技術的考察に関する作業方針

専門委員会における審議を円滑に進めるため、作業会合において、第2回専門委員会に報告された欧米における微小粒子状物質のリスク評価手法の情報、微小粒子状物質健康影響評価検討会報告等の知見や本委員会における主要論点に関する検討作業も踏まえ、疫学的証拠に基づく影響度評価手法及びリスク削減に基づく評価手法に関する技術的考察を以下の作業方針に従って行う。

1. 欧米の手法の分析の整理

欧米における微小粒子状物質のリスク評価手法の情報について、疫学的証拠に基づく影響度評価手法及びリスク削減に基づく評価手法に関する技術的考察に資するよう整理する。

2. 定量評価に資する疫学知見の整理

欧米の環境目標値の定量評価に実際に活用された定量評価に資する論文を整理するとともに、定量評価の作業に影響を与えうる文献に関して、健康影響評価検討会報告書においてレビューされていない論文を追加的にレビューして、欧米の知見を整理する。

3. 疫学知見に基づく影響度評価における解析手法等による誤差・変動要因の考察

個々の疫学研究において、複数の解析手法を基にして相対リスクとリスクに係る信頼区間の幅等の考察を行い、適切な解析手法を検討する。

このほか、適切な曝露期間や共存汚染物質の影響に関する考察を行うとともに疫学知見自体の不確実性や解析手法等の不確実性を評価する取組の考察を行う。

4. 国内知見も含めた実施可能な評価手法の検討

疫学的証拠に基づく影響度評価手法について、欧米の知見に国内知見も含めたうえで、実施可能な評価手法の考察を行う。

リスク削減予測に基づく評価手法について、欧米の評価手法を参考にしながら、日本国内の研究や大気汚染データ、健康データから見て実施可能な手法の検討を行う。